



スヴェイン・イエントフト 著
李銀姫・浪川珠乃 編訳
『水面上の生命』

本書のタイトル『水面上の生命』は、2015年の国連サミットにおいて掲げられた持続可能な開発目標（SDGs）14の「水面下の生命」に由来している。本書では、「水面下の生命」を守るために「水面上の生命」（小規模漁業や小規模漁業を営む漁村・コミュニティ）を守ることの重要性や、小規模漁業の持続性を確保するために必要な種々の視点がエッセイ形式で書かれている。

著者は事例研究を通じてグローバルな漁業問題の把握に取り組むノルウェーの社会学者であり、TBTI (Too Big To Ignore、小規模漁業の重要性を認識した研究者らによって形成された世界規模の小規模漁業研究ネットワーク) の創設メンバーである。また、TBTI Japanのコーディネーターである編訳者（李銀姫氏、浪川珠乃氏）を中心に、研究者やコンサルタント、行政機関に所属する30名によるコラムと漁業者6名からのコメントも掲載されている。それらが、グローバルな視点で書かれた本書と日本漁業における問題点や論点を結び付ける構成となっている。

2014年にFAOの加盟国によって「小規模漁業ガイドライン」（持続可能な小規模漁業を確保するための自主的ガイドライン）が採択されたことを踏まえての議論となる。このガイドラインでは、国によって事情が異なることを考慮し、小規模漁業をあえて定義していない。日本については、沿岸漁業が小規模漁業に位置づけられるようだ。小規模漁業は世界の漁獲量（海面及び内水

面）の約半数を占め、世界の約3,000万人の漁業者の90%を雇用しており、加工や流通などの関連業種を含めるとさらに8,400万人を支えるとされる。本書は、小規模漁業は規模は小さいがその存在は大きいと、小規模漁業の重要性を主張している。そこで、本書では小規模漁業の持続性をいかに確保していくかが議論されている。

本文では漁業ガバナンスのモデルの1つとして、ノルウェーの鮮魚法が紹介されている。また、ノルウェーには漁業者販売組織があり、それが小規模漁業の存続に貢献してきたことも記されている。ただし、本文ではノルウェー漁業の実態については触れられていない。その実態についても同時に触れられると、ノルウェーの鮮魚法や漁業者販売組織の重要性についての理解をより深めることができるように感じた。

本書からは、小規模漁業だけでなく関連産業や地域経済の持続性を考えるうえでも大切な知見や考え方を得ることができるだろう。漁業生産を起点に水産加工業、配送や冷蔵等の物流、造船、小売、外食、観光等の関連産業に波及し産地の地域経済を動かしている。

また、漁業は地域以外にも国内各地の経済に広く関連している。沿岸漁業によって漁獲された水産物は国内各地に生鮮状態（鮮度保持を行い）で出荷されるものが多く、寿司や刺身などの生食用に仕向けられる。日本的小規模漁業は国民に寄り添った存在ではなかろうか。そんなことを本書を読んで感じた。

—TBTI Global 2022年5月 電子書籍

https://45cb943d-6b5d-4134-947c-7b8ce8d1492d.usrfiles.com/ugd/45cb94_9d6e2c9ab3934fdea5758bf62f1eb639.pdf—

（水産大学校 水産流通経営学科 助教

刀禰一幸・とね かずゆき）